

# 続・ふるさと こぼれ話

## 給部と東高橋の「薬師」地名

第33回

生涯学習課総合情報館推進係  
☎028 (677) 2525

「薬師の郷」由来(6月号)、祖母井の代町薬師(8月号)に続き、「薬師」という地名が給部と東高橋にあると聞いたので、その場所を訪ねた。

給部には地名として「薬師堂」「薬師前」「薬師後」がある。場所は、県道宇都宮向田線北側で東京サブレッドビューローの東、給部の鎮守、高尾神社の北である。

「薬師堂」は、北条良作さんの宅地とその前の畑「薬師前」は薬師堂の西側、「薬師後」はその北西に当たる。

北条良作さんによると、「昭和37年ごろの宅地替えて、ここに家を建てた。当時、1mほどの塚が

あったので、平らにした。塚があるだけで、お堂はなかった」という。

東高橋には「薬師前」「薬師後」がある。場所は、五行側と野元川の合流地点付近に当たる。昭和50年代の土地改良事業で田畑の区画整理が行われたので、宅地と墓地、河川敷になっている所だけに薬師の地名が残っている。

「薬師前」が水沼康博さん、水沼勝平さん、「薬師後」が菅谷一男さん、菅谷正文さん、佐藤昭夫さんの宅地である。

菅谷一男さんの母親、キミ子さんの話。「この近くに薬師堂があったが大正末に火災にあい薬師

様とともに燃えてしまっ

た。本家の兄は、6畳の薬師堂の中で友達と遊んだらしい。火災後には小さな社を作り、5年ほど前に大谷石造りのお堂になった。昭和30年代までお盆前に下塚田のお年寄りがお参りに来ていた。

偶然がどうか分らないが、芳賀町合併前の祖母井町・南高根沢村・水橋村に「薬師」の地名が存在していることになる。



▲東高橋の薬師堂

### 編集後記

□朝、布団から出るのが辛い季節となりました。出勤前にわが家の猫がぬくぬくと丸くなり寝ているのを見ると、少しだけうらやましくなる今日(この)ごろです。

□先日「わが家のモミジから竹が生えた」との連絡をいただき、取材に急行。旧酒井医院の庭にある樹齢100年を超えると思われるモミジから本当に竹が…!

■「広報はが」では、こんなホツとできる話題も大募集しています。来年も皆さんの声をお寄せください。良いお年を。  
(廿)



- 編集 芳賀町広報広聴委員会  
☎028 (677) 6032 ✉kouhou@town.haga.tochigi.jp
- 発行 芳賀町企画課  
栃木県芳賀郡芳賀町大字祖母井1020番地
- 芳賀町ホームページアドレス  
http://www.town.haga.tochigi.jp
- 苦情専用フリーダイヤル  
☎0120 (753) 898

☎芳賀町の携帯サイトはコチラから➡



(L=15cm)  
Emberiza rustica  
(田舎のホオジロ類)



冬鳥として11月下旬から5月上旬頃まで芳賀町全域に数多く飛来し、通常は20~30羽の群れで行動することが多い。

大きさはホオジロよりやや小ぶりである。冠羽と呼ばれる後頭部に寝癖のように短い羽が立っているのが大きな特徴で、名前の由来はここから来ている。ホオジロ類で冠羽がはっきりとしているのはミヤマホオジロとこの2種だけである。喉から下が白く、胸から脇にかけて茶褐色の縦班線があり、腰は赤褐色で尾羽がまっすぐに長く、外側尾羽が白い。4月上旬に雄の頭上から頬にかけての色が茶褐色より黒くなるのを見ると、もうすぐ北の国に渡っていくのが近づいてきたと感じる。

普段はチツ、チツと細く鳴き、春先にはヒバリのさえずりに似たような鳴き声もする。くちばしは円錐形で短く小さい。主に植物の種子を好んで採餌するが繁殖期には多くの昆虫をとる。



この印刷物は、ESPAのゴールド基準に適合した地球環境にやさしい印刷方法で作成されています  
ESPA：環境保護印刷推進協議会  
http://www.espa.com